

ロハ、胡曹抄ニニ桃華藥葉ノ中天子御袍ノ文、竹桐御兩鳳トアリ、是ヲ權記ニ考ルニ、藤原行成卿
 リ天子御袍ノ文、竹桐五靈鳳ト書シタリ、是五ハ御兩ハ靈ニテ、二字共ニ、其字音ヲ借リタル假
 名書ナリ、胡曹抄以下ノ文ハ、野宮ト見エタリ、抑一引兩、二引兩ハ、日精月精ノ二靈ナリト有レ
 バ、全ク一ツ引靈、二ツ引靈ナリ、日精月精ヲ靈ト云フ事ハ、天照大神ヲ大日靈貴ト云ヒ、月讀尊
 ヲ月精靈貴トイフガ如ク、靈トハ日月精靈ノ事ニテ、其靈ノ字ヲ兩ト字畫ノ省略ニテ借リ用
 キタルモノナリ、去レバ實ニハ一ツ引靈、二ツ引靈ナリ、略中且日精ヲ大中黒トテ、一文字引ハ
 ○字ノ形象、二ツ引兩ヲ二文字引ハ **A** 字ノ形様ナリ、是モ亦上ニ云ヘル軍器考ニ引レタ
 ル、日月ノ謂ヒニテ、考ヘ察スベキ事ナリ、

〔倭訓栞中編二十一〕ひきりやう 引兩と書り、二ツ引の事なり、鎌倉若宮八幡の神庫を開きて寶
 器を見しに、二引兩の旗あり、二引兩は、足利氏の旗號なり、相傳ふ、是源義家の旗なりとみゆ、義昭
 將軍の書に、引兩筋とも見えたり、二ツ引兩、三ツ引兩などは、重ね云なるべし、一説に、源賴朝卿、石
 橋山合戰の後、下總國府に至り、兵を招く、此時大將の陣營幕なし、千葉介常胤己が白幕に墨紙を
 粘して二ツ引兩とす、此吉例たるにより、引兩幕を用らる、

〔類聚名物考武藝四〕一引兩 ひひとつひきれう 中黒と云 二引兩 ふたつひきれう

ひきれうの事、一引兩は新田家の紋にて、即ち中黒と云へり、二引兩は足利家の紋にて、その元は
 幕の紋より出て、中の幅を黒くし、上下白きを新田家に用ゐる、中の幅を白くして、上下黒きを二引
 兩といひ、足利家の紋といへる也、後は衣服の紋に用ゐる事ともなれり、れうとはその義未詳、龍
 の象也ともいひ、料の字をも書ども、まづは兩字を用ゐる來れり、此外に三浦等は三引も有也、或説
 にいふ、兩家の系譜に云傳へしは、日月の御紋を朝廷より賜はりしを、日月の古字を用ゐる紋とす、
 ○日字如此、中黒と云、**⊖**如此なるは月の字の形也といへり、今案に、是さる事にもせよ、是は